

新年のご挨拶

グリーン成長の実現に向けて

北海道森林管理局长 猪島 康浩

令和4年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、集中豪雨をはじめとする自然災害により、全国各地で甚大な被害が生じました。この度の災害によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りしますとともに、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

また、外材の輸入量の減少、価格の高騰など輸入木材の供給リスクが改めて顕在化する中で、国産材の安定供給に対する期待が一層高まった年でもありました。北海道森林管理局として、引き続き、国土強靱化に向けた治山対策の強化や木材の安定供給に取り組んでまいります。

さて、我が国の社会経済は、急速な少子高齢化と人口減少による経済停滞、地方衰退が懸念されるとともに、気候変動に伴う自然災害の頻発化や激甚化が指摘

されています。さらに、新型コロナウイルス感染症は、今なお、社会経済に大きな影響をもたらしています。これらの課題に対処していくためには、短期的な効率性や合理性のみを重視するのではなく、持続可能な社会の実現を目指していくこと、すなわちSDGsの達成に向けた取組が必要不可欠といわれています。

こうした中、昨年6月に、森林・林業・木材産業による「グリーン成長」をコンセプトとした新たな森林・林業基本計画が閣議決定されました。新計画では、森林を適正に管理・利用して、林業・木材産業の持続性を高めながら成長発展させる



ことで、2050年カーボンニュートラルも見据えた豊かな社会経済を実現することを目指しています。

林業の持続性の確保に向けては、再造林・保育の低コスト化・省力化が重要であり、北海道森林管理局では、林業機械によるササの根茎の除去や下刈りの実証などに取り組んでいるところです。引き続き、これらの課題に先頭となつて取り組み、その成果を「見える化」して民有林の関係者の皆様に普及していくなど、持続可能な林業の実現に向け取り組む考えです。

また、昨年10月に「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」が施行されたことを踏まえ、関係者と連携を密にして道産材の需要拡大を図って行くことが重要です。北海道でも戦後植林された人工林が本格的な利用期を迎えており、この豊富な森林資源の循環利用による、林業・木材産業の成長産業化や山村の振興への貢献が期待されています。今後とも、国有林材の持続的・計画的な供給に努めるとともに、道産材の需要拡大や加工・流通の合理化に向けて

新たな取組に挑戦する地域の事業体等を後押しするなど、道産材の利用拡大に取り組んでまいります。

さらに、近年多発している豪雨や地震等の自然災害に対しては、国土強靱化を図るため、流域治水と連携した治山対策の強化に取り組むとともに、知床をはじめ原始的な森林の適正な保全・管理や、希少種の保護、遺産資源の保存等にもしっかりと対応してまいります。



今年は、現場において、新たな基本計画の実施に本格的に取り組む最初の年となります。北海道森林管理局では、道内関係者の皆様と力を合わせて、カーボンニュートラルを見据えたグリーン成長の実現に向け、様々な課題に挑戦していく考えであり、本年も一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。結びに、本年が北海道の森林・林業・木材産業の飛躍の年となりますとともに、皆様の益々のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。